Satera

ユーザーズガイド（機能追加のお知らせ）

USRMB-1460-00 2026-05 ja
Copyright CANON INC. 2026

もくじ

はじめにお読みください 2

各種機能に関する変更 5

認証サーバーに関する変更 6

認証サーバー情報を登録する 7

システム仕様の変更 11

設定/登録に関する変更 14

新規追加項目 15

［DNS 暗号化設定］（Ver.4.04～） 16

［回線分離によるファイル共有制限］（Ver.4.04～） 17

［パスワード強度メーターを使用］（Ver.4.04～） 18

［ﾎﾟﾘｼｰ違反のﾊﾟｽﾜｰﾄﾞをﾛｸﾞｲﾝ時に必ず変更］（Ver.4.04～） 19

変更項目 20

バージョンごとの変更点 23

Ver.4.02 から Ver.4.04 の変更点 24

第三者のソフトウェアについて 26

はじめにお読みください

はじめにお読みください 2

はじめにお読みください

EWXC-000

本マニュアルはユーザーズガイドとあわせてお読みください。本マニュアルは、プラットフォームバージョン Ver.4.04 以降で対応した追加機能や変更内容について説明しています。

お使いのバージョンを確認する

お使いの機種によっては最新のプラットフォームバージョンが適用されていない場合があります。以下の手順でお使いのバージョンをご確認のうえ、本マニュアルをお読みください。

1 操作パネルの［ホーム］画面などで、［ ］を押す

➔［カウンター/機器情報］画面が表示されます。

2 ［機器情報/その他］▶［デバイス構成確認］を押す

3 ［プラットフォームバージョン］でお使いのバージョンを確認する



本マニュアルの読みかた

本マニュアルで使われるアイコンなどについて説明します。なお、ここで説明していないマークや画面などについては、「ユーザーズガイド」と同様です。

対応バージョンについて

ファームウェアのアップデートにより追加／変更となった記載内容に対しては、対応となるバージョンを以下のアイコンで示しています。

Ver.4.04～	プラットフォームバージョン Ver.4.04 以降で対応

メモ

対応バージョンに応じた記載内容を探す

- バージョンごとの変更点を一覧にまとめたページから探すことができます。 **バージョンごとの変更点 (P. 23)**

- 「Ver.4.04」のようにキーワードにバージョンを入力して検索すると、それを含むページが候補として表示されますので、その中から探すことができます。



本マニュアルの表示を設定する

本マニュアルの文字サイズを変更したり、本マニュアルを表示する機器に合わせた画面レイアウトに切り替えたりすることができます。

メモ

- PDF 形式のマニュアルを見られない場合は、Adobe Acrobat Reader をアドビシステムズ社のホームページ（https://get.adobe.com/reader/）からダウンロードしてください。

商標について

Google Cloud、Google Workspace は、Google LLC の商標です。

本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

各種機能に関する変更

各種機能に関する変更 5
認証サーバーに関する変更 6
認証サーバー情報を登録する 7
システム仕様の変更 11

各種機能に関する変更

EWXC-002

本機の各種機能に関する変更内容について説明しています。

認証サーバーに関する変更 (P. 6)
システム仕様の変更 (P. 11)

認証サーバーに関する変更

EWXC-003

Ver.4.04～

外部認証サーバーに Google Workspace を追加

外部認証サーバーに Google Workspace が追加になりました。



外部認証サーバーとして、Google Workspace を利用する場合は、使用するサーバー情報を登録します。 **認証サーバー情報を登録する (P. 7)**

認証サーバー情報を登録する

EWXC-004

外部認証サーバーとして、Google Workspace を利用する場合は、使用するサーバー情報を登録します。

サーバー情報は、パソコンからリモート UI を使用して登録します。操作パネルを使用して登録することはできません。Administrator 権限が必要です。登録の反映には、本機の再起動が必要となります。

必要な準備

- DNS や日付／時刻の設定など、Google Workspace の使用に必要な設定が完了している必要があります。
- 使用する Google Workspace へのアクセス情報を手元に用意します。
- Google Workspace 情報を設定する場合は、［ウェブブラウザー］の［ブラウザーエンジン］を［WebKit2］に設定する必要があります。

1 リモート UI に管理者ユーザーでログインする

2 リモート UI のポータル画面で、［設定/登録］をクリックする

3 ［ユーザー管理］▶［認証管理］▶［サーバー設定］▶［編集］をクリックする

➔［サーバー設定の編集］画面が表示されます。

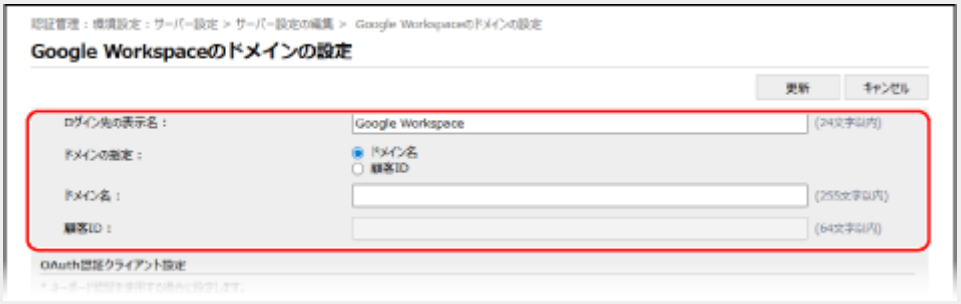
4 ［認証サーバー］で、Google Workspace の情報を設定する



Google Workspace 情報を設定する場合

1. ［Google Workspace を利用する］にチェックマークを付ける
2. ［ドメインの設定］をクリックする

   ➔［Google Workspace のドメインの設定］画面が表示されます。
3. Google Workspace 情報を設定する



［ログイン先の表示名］
ログイン先で表示する名称を入力します。

［ドメインの指定 ］
［ドメイン名］と［顧客 ID ］のどちらをドメインとして使用するかを選択します。

［ドメイン名］
ログイン先となる Google Workspace のドメイン名を入力します。

［顧客 ID ］
ログイン先となる Google Workspace の顧客 ID を入力します。

4. OAuth 認証クライアント情報を設定する

［クライアント ID］
クライアント ID を入力します。

［クライアントシークレット］
Google Workspace で発行したクライアントシークレットを入力します。

5. サービスアカウント情報を設定し、［接続テスト］をクリックして接続できることを確認する

［サービスアカウントのメールアドレス ］
Google Workspace で発行したサービスアカウントのメールアドレスを入力します。

［Google Workspace 管理者のメールアドレス ］
Google Workspace 管理者のメールアドレスを入力します。

［鍵と証明書］
鍵と証明書を使用する場合は、［鍵と証明書］をクリックし、Google Workspace に登録する証明書を設定します。鍵のアルゴリズムが RSA 2048 bit 以上で署名アルゴリズムが SHA256／SHA384／SHA512 のものを選択します。
［証明書のエクスポート］を押すと、Google Workspace に登録する証明書をエクスポートできます。

6. 属性を設定する

［認証時に照合する属性］
使用する IC カードの ID や正当性値（再発行回数）を、プルダウンメニューで選択します。
※IC カードの登録または IC カードの削除を行う場合は、［カード ID (IC カード認証)］で「customSchemas.Card.CardId」を選択し、Google Workspace 上に「customSchemas.Card.CardId」のカスタム属性を作成します。
※正当性値の場合は、［正当性値 (IC カード認証)］で「customSchemas.Card.CardId」を選択し、Google Workspace 上に「customSchemas.Card.CardId」のカスタム属性を作成します。

※Google Workspace 上に任意のカスタム属性を作成し、「customSchemas.カテゴリ名.フィールド名」の形式でカスタム属性を入力する事も可能です。

［ログインアカウントに設定する属性］
各ユーザーアカウントの［ログイン名］／［表示名］／［E メールアドレス］が登録されている属性を、プルダウンメニューで選択します。

7. ［ログインアカウントに設定するドメイン名］の［ドメイン名］で、ログイン先のドメイン名を設定する
8. ［キーボード認証時のユーザー名入力補完］の［補完するドメイン名］を設定する
   補完するドメイン名を入力します。通常は、［ドメイン名］と同じにします。
9. ［更新］をクリックする

   ➔［サーバー設定の編集］画面に戻ります。

5 ［認証タイムアウト］で、認証開始からタイムアウトするまでの時間を入力する

6 ［デフォルトドメイン］で、優先して接続するドメインを指定する

7 ［ユーザー情報のキャッシュ］で、ユーザーの認証情報を保持するかどうかを設定する

- 操作パネルからログインしたユーザーの認証情報を保持する場合は、［ログインユーザーの認証情報を保存する］にチェックマークを付けます。手順 5 で設定した時間内に認証サーバーに接続できなかった場合は、キャッシュに保持した認証情報を使用してログインすることができます。
- キーボード認証時にログインしたユーザーの認証情報を保持する場合は、［キーボード認証時のユーザー情報を保存する］にもチェックマークを付けます。チェックマークを付けると、サーバーに接続できない場合でも、保持した認証情報を使用してログインできます。

8 ［ロールの関連付け］で、ユーザー情報や権限の設定をする

［参照するユーザー属性］
ユーザーの権限（ロール）を決定するために参照するサーバー上の属性を入力します。

Google Workspace の場合

「Google Workspace の任意のユーザ属性」「memberOf」が設定可能です。

- 「Google Workspace の任意のユーザ属性」には、「customSchemas.カテゴリ名.フィールド名」の形式のカスタム属性を設定している場合のみ有効です。設定したカスタム属性は、Google Workspace 上に作成しておく必要があります。

［適用するロール名を［参照するユーザー属性］から取得する］
［参照するユーザー属性］で指定した属性に登録されている文字列をそのままロール名として使用する場合は、チェックマークを付けます。あらかじめ本機で選択可能なロール名を確認し、サーバー側で登録しておく必要があります。

［適用条件］
ユーザーの権限を決定する条件を設定できます。条件は、上から順に適用されます。

- ［一致条件］で、［文字列］との一致条件を選択します。
- ［文字列］に、［参照するユーザー属性］で指定した属性に登録されている文字列を入力します。ユーザーの所属グループに応じた権限を設定する場合は、所属グループ名を入力します。
- ［ロール］で、条件を満たしたユーザーに適用する権限を選択します。

※Active Directory サーバーを使用する場合は、あらかじめ「Canon Peripheral Admins」グループの所属メンバーが［Administrator］に設定されています。

9 ［更新］をクリックする

10 本機を再起動する

➔登録が反映されます。

メモ

認証情報のキャッシュ保存を禁止する

- 外部認証サーバーへのログイン時に入力したパスワードのキャッシュ保存を禁止できます。
- キャッシュ保存を禁止した場合、手順 7 の［ログインユーザーの認証情報を保存する］の設定が自動的に無効になります。手順 7 の設定を有効にする場合は、［ログインユーザーの認証情報を保存する］にチェックマークを付け、認証サーバー情報を更新します。

Active Directory 側で Kerberos ポートのポート番号を変更している場合

- 以下の情報を SRV レコードとして DNS サーバーに登録します。
  - サービス：「_kerberos」
  - プロトコル：「_udp」
  - ポート番号：Active Directory ドメイン（ゾーン）の Kerberos サービスが実際に使用しているポート番号
  - このサービスを提供しているホスト：Active Directory ドメイン（ゾーン）の Kerberos サービスを実際に提供しているドメインコントローラーのホスト名

Google Workspace のサーバー設定を行う

Google Workspace のアカウント連携を行うには Google Workspace、GoogleCloud で以下の設定が必要になります。
サービスの更新などによって、設定方法が変更されることがあります。詳しくは、Google のホームページを参照してください。

- GoogleCloud の API 設定
  - ［API とサービス］を有効にする設定で、Admin SDK API を検索して有効に設定します。
- OAuth の同意の設定

Google Workspace のアカウントでキーボード認証を行う場合

- OAuth クライアント ID の設定
  - ［アプリケーションの種類］には、［ウェブアプリケーション］を設定します。
  - ［承認済みのリダイレクト URI］には、「http://localhost:8000/WebViewGoogle」を設定します。

Google Workspace のアカウントで IC カード認証を行う場合

- 認証情報作成（サービスアカウント）の設定
- サービスアカウントのキー設定
- サービスアカウント利用のためのポリシー設定
- ドメイン全体の権限の委任設定
  ［スコープ］には以下を設定します。
  https://www.googleapis.com/auth/admin.directory.user
  https://www.googleapis.com/auth/admin.directory.group.readonly
- Google Workspace 管理者のメールアドレス設定

システム仕様の変更

EWXC-005

Ver.4.04～

対応 OS の変更

各種機能に対応する OS が以下のとおり変更となりました。

LIPS LX プリンター機能

対応 OS	Windows 10 / 11 Windows Server 2016 / 2019 / 2022 / 2025 macOS 11.7 以降

PS プリンター機能（オプション）

対応 OS	ドライバー Windows 10 / 11 Windows Server 2016 / 2019 / 2022 / 2025 macOS 11.7 以降 PPD Windows 10 / 11 macOS 11.7 以降

セキュリティー／管理機能の仕様の変更

副回線のファイアウォールの初期設定

例外ポート番号が以下のとおり変更となりました。

例外ポート番号	53、67、68、80、161、443、515 *1、631 *1、853 *2、3702、5353、5357、5358、6443 *1、8000 *1、8080、8443 *1、9013、9100 *1、10443 *1、20010 *1、47545

*1 受信フィルターのみ
*2 送信フィルターのみ

サポート環境の変更

サポート環境に対応する OS が以下のとおり変更となりました。

ファイルサーバー

ファイル送信可能なファイルサーバー	SMB Windows 10 / 11 Windows Server 2016 / 2019 / 2022 / 2025 macOS Ventura / Sonoma / Sequoia FTP Windows 10 / 11 / Server 2016 / Server 2019 / Server 2022 / Server 2025：Internet Information Services 10 WebDAV Windows 10 / 11 / Server 2016 / Server 2019 / Server 2022 / Server 2025：Internet Information Services 10 macOS Ventura / Sonoma / Sequoia

アドバンスドボックス

アドバンスドボックスに接続可能な Windows サーバー	SMB Windows 10 / 11 Windows Server 2016 / 2019 / 2022 / 2025 WebDAV Windows 10 / 11 Windows Server 2016 / 2019 / 2022 / 2025

設定/登録に関する変更

設定/登録に関する変更 14
新規追加項目 15
［DNS 暗号化設定］（Ver.4.04～） 16
［回線分離によるファイル共有制限］（Ver.4.04～） 17
［パスワード強度メーターを使用］（Ver.4.04～） 18
［ﾎﾟﾘｼｰ違反のﾊﾟｽﾜｰﾄﾞをﾛｸﾞｲﾝ時に必ず変更］（Ver.4.04～） 19
変更項目 20

設定/登録に関する変更

EWXC-006

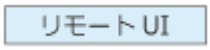
［設定/登録］画面の項目に関する変更内容について説明しています。［設定/登録］画面は操作パネルの［ 設定/登録］を押すと表示されます。

新規追加項目 (P. 15)
変更項目 (P. 20)

メモ

- リモート UI から設定できるかどうかは、項目ごとに以下のマークで示しています。

  設定できる項目

  設定できない項目

- ［設定/登録］メニューの項目によっては、表示／変更するために管理者権限が必要です。
  - Administrator 権限を持つユーザーでログインしている場合は、すべての項目を変更できます。
  - DeviceAdmin/NetworkAdmin 権限を持つユーザーでログインしている場合は、項目により、変更できるかどうかが異なります。変更できるか どうかは項目ごとに以下のマークで示しています。

    設定できる項目

    設定できない項目

新規追加項目

EWXC-007

設定/登録に新たに追加された項目について説明しています。

- ［DNS 暗号化設定］（Ver.4.04～） (P. 16)
- ［回線分離によるファイル共有制限］（Ver.4.04～） (P. 17)
- ［パスワード強度メーターを使用］（Ver.4.04～） (P. 18)
- ［ﾎﾟﾘｼｰ違反のﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ をﾛｸﾞｲﾝ時に必ず変更］（Ver.4.04～） (P. 19)

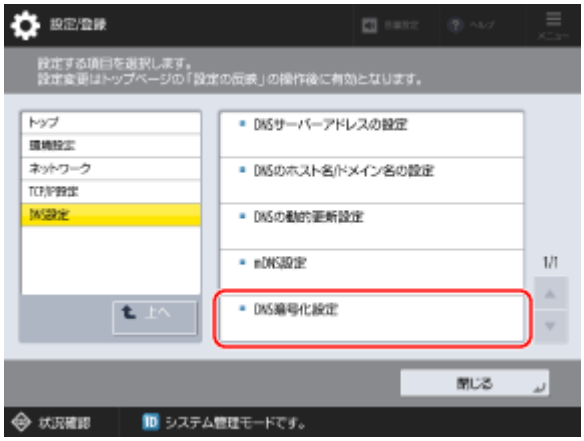
［DNS 暗号化設定］ Ver.4.04～

EWXC-008

DeviceAdmin NetworkAdmin リモート UI

［設定/登録］▶［環境設定］▶［ネットワーク］▶［TCP/IP 設定］▶［DNS 設定］▶［DNS 暗号化設定］

DNS サーバーとの通信を TLS で暗号化するかどうかの設定ができるようになりました。



［DNS over TLS を使用］
　［ON］、［OFF］

［使用するポート番号］
　1 ～ 853 ～ 65535

［検証するホスト名］
　［ホスト名］

※各項目に赤い文字で表記されている設定値は初期設定です。

配信／インポート／エクスポートできる設定項目

機器情報配信／インポート／エクスポート対応状況は、以下のとおりです。

対応状況一覧の見かたについては、「ユーザーズガイド」の「［設定/登録］メニュー一覧」▶「配信／インポート／エクスポートできる設定項目」▶「対応状況一覧の見かた」を参照してください。

設定項目	機器情報配信	一括インポート	一括エクスポート
［DNS 暗号化設定］	×	C	設定/登録の基本情報

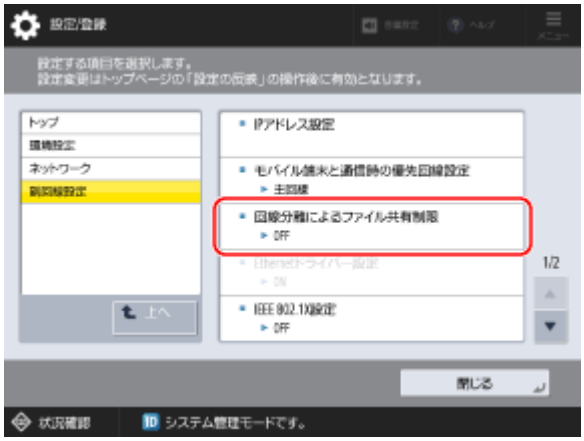
[回線分離によるファイル共有制限] Ver.4.04～

EWXC-009

DeviceAdmin NetworkAdmin リモートUI

[設定/登録] ▶ [環境設定] ▶ [ネットワーク] ▶ [副回線設定] ▶ [回線分離によるファイル共有制限]

[保存ファイルの利用] のセキュリティーを強化するかどうかの設定ができるようになりました。



[ON]、[OFF]

※各項目に赤い文字で表記されている設定値は初期設定です。

配信／インポート／エクスポートできる設定項目

機器情報配信／インポート／エクスポート対応状況は、以下のとおりです。

対応状況一覧の見かたについては、「ユーザーズガイド」の「[設定/登録] メニュー一覧」▶「配信／インポート／エクスポートできる設定項目」▶「対応状況一覧の見かた」を参照してください。

設定項目	機器情報配信	一括インポート	一括エクスポート
[回線分離によるファイル共有制限]	×	C	設定/登録の基本情報

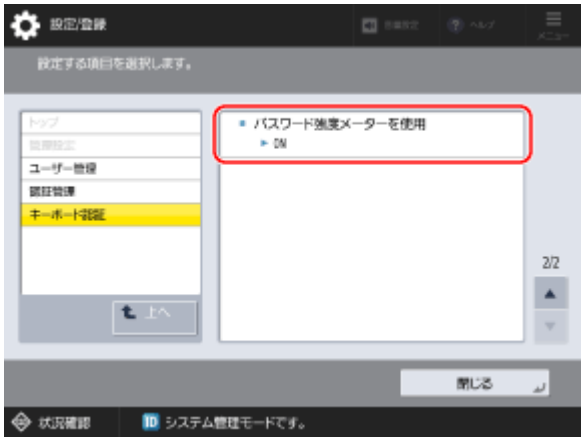
［パスワード強度メーターを使用］ Ver.4.04～

EWXC-00A

DeviceAdmin NetworkAdmin リモートUI

［設定/登録］▶［管理設定］▶［ユーザー管理］▶［認証管理］▶［キーボード認証］▶［パスワード強度メーターを使用］

ユーザー情報を登録する／編集するときのパスワード設定画面に、パスワードの強度を確認するメーターを表示するかどうかを設定できるようになりました。



［ON］、［OFF］
　［パスワード強度］
　　1～5段階

※各項目に赤い文字で表記されている設定値は初期設定です。

配信／インポート／エクスポートできる設定項目

機器情報配信／インポート／エクスポート対応状況は、以下のとおりです。

対応状況一覧の見かたについては、「ユーザーズガイド」の「［設定/登録］メニュー一覧」▶「配信／インポート／エクスポートできる設定項目」▶「対応状況一覧の見かた」を参照してください。

設定項目	機器情報配信	一括インポート	一括エクスポート
［パスワード強度メーターを使用］	×	C	設定/登録の基本情報

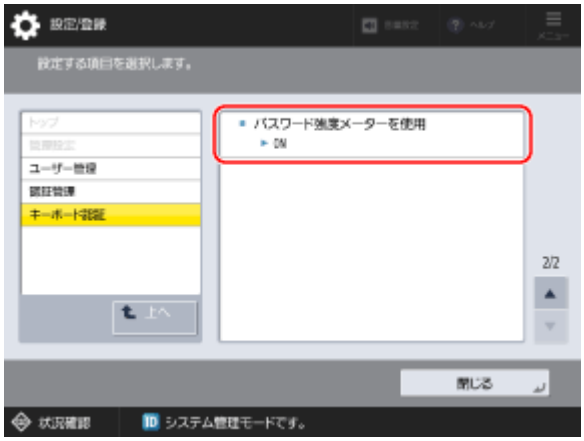
[ﾎﾟﾘｼｰ違反のﾊﾟｽﾜｰﾄﾞをﾛｸﾞｲﾝ時に必ず変更] Ver.4.04～

EWXC-00C

DeviceAdmin | NetworkAdmin | リモートUI

[設定/登録] ▶ [管理設定] ▶ [セキュリティー設定] ▶ [認証/パスワード設定] ▶ [パスワード設定] ▶ [ﾎﾟﾘｼｰ違反のﾊﾟｽﾜｰﾄﾞをﾛｸﾞｲﾝ時に必ず変更]

ユーザー名「Administrator」の管理者ユーザーが初期設定のパスワードで本機にログインしたときに、パスワードを変更しないとログインできないようにするかどうかを設定できるようになりました。



[ON]、[OFF]

※各項目に赤い文字で表記されている設定値は初期設定です。

変更項目

EWXC-00E

設定内容や補足説明などが変更となった設定項目は以下のとおりです。

Ver.4.04～

［設定/登録］▶［環境設定］▶［ネットワーク］▶［Ethernet ドライバー設定］

- 設定項目に［EEE を使用］が追加になりました。

  ※ネットワーク環境によっては、本機とネットワークの接続が不安定になることがあります。その場合は、［EEE を使用］を［OFF］に設定します。

変更前	変更後
［自動検出］ ［ON］、［OFF］ ［通信方式］ ［半二重］、［全二重］ ［Ethernet の種類］ ［10BASE-T］、［100BASE-TX］、［1000BASE-T］ ［動作中の通信速度］ ［MAC アドレス］	［自動検出］ ［ON］、［OFF］ ［通信方式］ ［半二重］、［全二重］ ［Ethernet の種類］ ［10BASE-T］、［100BASE-TX］、［1000BASE-T］ ［動作中の通信速度］ ［MAC アドレス］ ［EEE を使用］ ［ON］、［OFF］

［設定/登録］▶［環境設定］▶［ネットワーク］▶［副回線設定］▶［Ethernet ドライバー設定］

- 設定項目に［EEE を使用］が追加になりました。

  ※ネットワーク環境によっては、本機とネットワークの接続が不安定になることがあります。その場合は、［EEE を使用］を［OFF］に設定します。

変更前	変更後
［自動検出］ ［ON］、［OFF］ ［通信方式］ ［半二重］、［全二重］ ［Ethernet の種類］ ［10BASE-T］、［100BASE-TX］、［1000BASE-T］ ［動作中の通信速度］ ［MAC アドレス］	［自動検出］ ［ON］、［OFF］ ［通信方式］ ［半二重］、［全二重］ ［Ethernet の種類］ ［10BASE-T］、［100BASE-TX］、［1000BASE-T］ ［動作中の通信速度］ ［MAC アドレス］

変更前	変更後
	[EEE を使用] 　[ON]、[OFF]

[設定/登録] ▶ [管理設定] ▶ [ライセンス/その他] ▶ [リモートオペレーション設定]

- 設定項目に［詳細設定］が追加になりました。

変更前	変更後
[ON]、[OFF] 　[パスワード]	[ON]、[OFF] 　[パスワード] 　[詳細設定] 　　[リモート UI 経由の操作を許可するユーザー] 　　[管理者のみ]、[すべて] 　　[リモート UI を経由しない操作を許可] 　　[ON]、[OFF] 　　[タイムアウト時間] 　　0 分（なし）、1 ～ 15 ～ 150 分

バージョンごとの変更点

バージョンごとの変更点 23
Ver.4.02 から Ver.4.04 の変更点 24

バージョンごとの変更点

EWXC-00F

バージョンごとの変更点を一覧にまとめて説明しています。

Ver.4.02 から Ver.4.04 の変更点 (P. 24)

Ver.4.02 から Ver.4.04 の変更点

EWXC-00H

プラットフォームバージョン Ver.4.04 における変更点は以下のとおりです。お使いの機種によっては利用できない機能や設定もあります。詳しくは、各変更点のリンク先の記載をご確認ください。

各種機能に関する変更点 (P. 24)
設定登録に関する変更点 (P. 24)

各種機能に関する変更点

- 外部認証サーバーに Google Workspace を追加
  認証サーバーに関する変更 (P. 6)
- 各種仕様（対応する OS／スキャンの仕様／セキュリティー／管理機能の仕様／サポート環境）の変更
  システム仕様の変更 (P. 11)

設定登録に関する変更点

- ［DNS 暗号化設定］を新規追加
  ［DNS 暗号化設定］（Ver.4.04～） (P. 16)
- ［回線分離によるファイル共有制限］を新規追加
  ［回線分離によるファイル共有制限］（Ver.4.04～） (P. 17)
- ［パスワード強度メーターを使用］を新規追加
  ［パスワード強度メーターを使用］（Ver.4.04～） (P. 18)
- ［ﾎﾟﾘｼｰ違反のﾊﾟｽﾜｰﾄﾞをﾛｸﾞｲﾝ時に必ず変更］を新規追加
  ［ﾎﾟﾘｼｰ違反のﾊﾟｽﾜｰﾄﾞをﾛｸﾞｲﾝ時に必ず変更］（Ver.4.04～） (P. 19)
- ［Ethernet ドライバー設定］の設定項目の追加
  変更項目 (P. 20)
- ［リモートオペレーション設定］の設定項目の追加
  変更項目 (P. 20)

第三者のソフトウェアについて

第三者のソフトウェアについて 26

第三者のソフトウェアについて

EWXC-00K

各バージョンの第三者のソフトウェアに関する情報は、本マニュアルの HTML 版をご確認ください。HTML 版マニュアルはオンラインマニュアルサイト（https://oip.manual.canon/）からご覧になることができます。

This Font Software is licensed under the SIL Open Font License, Version 1.1.
This license is copied below, and is also available with a FAQ at:
https://openfontlicense.org

SIL OPEN FONT LICENSE Version 1.1 - 26 February 2007

PREAMBLE
The goals of the Open Font License (OFL) are to stimulate worldwide development of collaborative font projects, to support the font creation efforts of academic and linguistic communities, and to provide a free and open framework in which fonts may be shared and improved in partnership with others.

The OFL allows the licensed fonts to be used, studied, modified and redistributed freely as long as they are not sold by themselves. The fonts, including any derivative works, can be bundled, embedded, redistributed and/or sold with any software provided that any reserved names are not used by derivative works. The fonts and derivatives, however, cannot be released under any other type of license. The requirement for fonts to remain under this license does not apply to any document created using the fonts or their derivatives.

DEFINITIONS
"Font Software" refers to the set of files released by the Copyright Holder(s) under this license and clearly marked as such. This may include source files, build scripts and documentation.

"Reserved Font Name" refers to any names specified as such after the copyright statement(s).

"Original Version" refers to the collection of Font Software components as distributed by the Copyright Holder(s).

"Modified Version" refers to any derivative made by adding to, deleting, or substituting -- in part or in whole -- any of the components of the Original Version, by changing formats or by porting the Font Software to a new environment.

"Author" refers to any designer, engineer, programmer, technical writer or other person who contributed to the Font Software.

PERMISSION & CONDITIONS
Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of the Font Software, to use, study, copy, merge, embed, modify, redistribute, and sell modified and unmodified copies of the Font Software, subject to the following conditions:

1) Neither the Font Software nor any of its individual components,

in Original or Modified Versions, may be sold by itself.

2) Original or Modified Versions of the Font Software may be bundled, redistributed and/or sold with any software, provided that each copy contains the above copyright notice and this license. These can be included either as stand-alone text files, human-readable headers or in the appropriate machine-readable metadata fields within text or binary files as long as those fields can be easily viewed by the user.

3) No Modified Version of the Font Software may use the Reserved Font Name(s) unless explicit written permission is granted by the corresponding Copyright Holder. This restriction only applies to the primary font name as presented to the users.

4) The name(s) of the Copyright Holder(s) or the Author(s) of the Font Software shall not be used to promote, endorse or advertise any Modified Version, except to acknowledge the contribution(s) of the Copyright Holder(s) and the Author(s) or with their explicit written permission.

5) The Font Software, modified or unmodified, in part or in whole, must be distributed entirely under this license, and must not be distributed under any other license. The requirement for fonts to remain under this license does not apply to any document created using the Font Software.

TERMINATION
This license becomes null and void if any of the above conditions are not met.

DISCLAIMER
THE FONT SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO ANY WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF COPYRIGHT, PATENT, TRADEMARK, OR OTHER RIGHT. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INDIRECT, INCIDENTAL, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE FONT SOFTWARE OR FROM OTHER DEALINGS IN THE FONT SOFTWARE.